慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	川村晃生教授 略歴・主要研究業績目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2011
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.101, No.1 (2011. 12) ,p.I- VII
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	川村晃生教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01010001--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

川村晃生教授　略歴・主要研究業績目録

川村晃生教授　略歴

学歴

昭和四〇年三月　山梨県立甲府第一高等学校卒業
昭和四四年三月　慶應義塾大学文学部文学科国文学専攻卒業
昭和四六年三月　慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻修士課程修了
昭和五一年三月　慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻後期博士課程単位取得退学
平成三年一〇月　博士（文学）

職歴

昭和五一年四月　慶應義塾大学非常勤講師（文学部）
昭和五四年四月　慶應義塾大学助手（文学部）
昭和五七年四月　慶應義塾大学助教授（文学部）
昭和六〇年一〇月　慶應義塾大学通信教育部学習指導副主任
平成四年四月　慶應義塾大学教授（文学部）

平成七年四月　慶應義塾大学大学院文学研究科委員

なお他に成蹊大学、山梨大学、東京大学等で非常勤講師を兼任

賞　罰

昭和五六年七月　第七回日本古典文学会賞受賞

平成三年一一月　義塾賞受賞

川村晃生教授　主要研究業績目録

［著書］

『能因法師集・玄々集とその研究』（昭和五四年六月　三弥井書店）
『古今和歌集』（昭和六一年九月　ほるぷ出版）
『後拾遺和歌集』（『和泉古典叢書5』平成三年三月　和泉書院）
『摂関期和歌史の研究』（平成三年四月　三弥井書店）
『能因集注釈』（平成四年六月　貴重本刊行会）
『国文学古典研究Ⅳ――平安和歌研究――』（平成六年三月　慶應義塾大学出版会）
『袖中抄（上）』（『歌論歌学集成 第四巻』平成一二年三月　三弥井書店）
『袖中抄（下）』（『歌論歌学集成 第五巻』平成一二年八月　三弥井書店）
『日本文学から「自然」を読む』（平成一六年六月　勉誠出版）

［編著書・共著書］

『名所歌枕の本文の研究』（昭和六一年四月　笠間書院）

『金葉和歌集 詞花和歌集』（『新日本古典文学大系9』平成元年九月　岩波書店）
『長秋詠藻／俊忠集』（『和歌文学大系』平成一〇年一二月　明治書院）
『環境学事始め』（平成一一年七月　慶應義塾大学出版会）
『歌われた風景』（平成一二年一〇月　笠間書院）
『壊れゆく景観――消えてゆく日本の名所』（平成一八年一一月　慶應義塾大学出版会）

［論文］

「和歌史としての百人一首」（『国文学』学燈社　三七巻一号　平成四年一月）
「私家集と歌壇――堀河院歌壇をめぐって――」（『王朝私家集の成立と展開』風間書房　平成四年一月）
「廃園の風景」（『新古今集と漢文学』汲古書院　平成四年一一月）
「酒の詩・酒の歌」（『講座平安文学論究 第九輯』風間書房　平成五年一〇月）
「句題和歌と白氏文集」（『白居易研究講座 第三巻』勉誠出版　平成五年一〇月）
「金葉和歌集」（『王朝の和歌』勉誠出版　平成五年一二月）
「公任の秀歌撰――『金玉集』をめぐって――」（『百人一首と秀歌撰』風間書房　平成六年一月）
「田園のうた」（『藝文研究』六五号　平成六年三月）
「俳諧性の基盤――無心所著歌・俳諧歌――」（『国語と国文学』七一巻五号　平成六年五月）
「下層官人の眼差し――『曽禰好忠集』をめぐって」（『国文学』学燈社　三九巻一三号　平成六年一一月）

「詩語と歌語のあいだ――〈霞の色〉をめぐって――」（『国学院雑誌』九五巻一一号　平成六年一一月）
「詞書の意味するもの」（『国文学』学燈社　四〇巻一〇号　平成七年八月）
「大江匡房の和歌」（『国文学 解釈と鑑賞』六〇巻一〇号　平成七年一〇月）
「明月記と和歌――作品と日常の交差する場――」（『和歌文学の伝統』角川書店　平成九年八月）
「大路の柳・堤の柳」（『三田国文』二六号　平成九年九月）
「朧月」の成立」（『国語と国文学』七四巻一〇号　平成九年一〇月）
「「獣歌」考」（『王朝和歌と史的展開』笠間書院　平成九年一二月）
「飛鳥川の淵瀬」（『藝文研究』七七号　平成一一年一二月）
「和歌から〈焼畑〉を考える」（『藝文研究』九一号　平成一八年一二月）
「祝島から仙崎へ――〈文学〉から〈近代〉を問う旅――」（『藝文研究』九五号　平成二〇年一二月）